

ふるさとの川～水がつなぐ自然のめぐみと人のくらし

小学校低学年 小学校中学年 小学校高学年 中学校

ESDの要素

持続可能な社会づくりの構成概念

多様性

相互性

有限性

公平性

連携性

責任性

ESD視点で育みたい能力/態度

【批判】批判的に考える力

【未来】未来像を予測して計画を立てる力

【多面】多面的、総合的に考える力

【伝達】コミュニケーションを行う力

【協力】他者と協力する態度

【関連】つながりを尊重する態度

【参加】進んで参加する態度

プログラム目標

普段何気なく見ている川の自然を様々な視点から調べることで、川の生態系の多様性や相互のつながり、関わり合いに気づくことです。また、普段当たり前のように口にしている豆腐を自分の手で作ることで、大地の恵みや先人の知恵に感謝する心を育みます。さらに地域を流れる川の豊かさ、恵みを知り、地域への親しみや愛着を持ち、地域の自然を大切にすることを育みます。調べてまとめたことを図や表、具体物等を用いて他者にわかりやすく伝える能力を育てます。活動を支援する地域の人や専門家との出会いや関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、地域への帰属感を育みます。

プログラム概要

自然体験の機会が少ない児童が生物の採集や調査により地域を流れる川を体感する体験活動中心のプログラムです。豆腐の手作り体験で大豆に関する理解を深め、地元の農産物を大地の恵みと感じ、先人から伝わる伝統技法により美味しく味わいます。川の体験活動では、水生生物・植物、野鳥、湧水などの視点から川を見るため、地域の海洋生物専門家の協力のもと、異なる季節に2度の体験をし、違いを体験します。その後課題を追求するために本や資料、インターネットなどで学習します。その成果を作品にまとめ、学校だけでなく保護者や地域の人々に向けても発表。地域を流れる川の情報を共有し、川をより身近なものとして認識できるようにします。

学習指導要領との関連

学年 | 教科

小学校4年

総合

学習内容

小学校3・4年

国語

A話すこと・聞くこと

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

小学校3～5年

理科

1-B 生命・地球(2)身近な自然の観察

身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の間との関係について考えを持つことができるようにする。

2-B 生命・地球(2)季節と生物

身近な動物や植物を探したり育てたり、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかわりについての考えをもつことができるようにする。

3-B 生命・地球(3)流水の働き

地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化についての考えを持つことができるようにする。

時	単元名 (題材名)	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等 〔教材・必要物〕
(1・2時間) 秋の川を感じよう (共通体験)		<ul style="list-style-type: none"> 川を調べる目的と方法について理解する。 水生生物、水生植物の観察、調査の方法を知り、実際に観察・調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域の中でも中流からやや上流で、コンクリート堤防ではない自然度の高い場所。 海の生物の専門家や湧水（湧き水）の研究者の指導を仰ぐ。 <p>〔胴長・長靴・タモ網・箱眼鏡・水槽(バット)・竹ざお・ナイロン糸・釣針〕</p>
(3・4時間) とうふ作りと水の不思議を体験しよう (共通体験)		<ul style="list-style-type: none"> 豆腐作りを通して水のふしぎ、また材料となる農産物(大豆)について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を変えて、水の豊かさ（質・量）、農地・農業との関わり、とうふの原材料は何か等、様々な関連性を提示する。 手づくりの文化の伝承を体感する。
(5時間) 冬の川を感じよう (共通体験)		<ul style="list-style-type: none"> 冬季の川の生物、植物を観察し、秋との違いを学ぶ。 湧水の有無（見分け方）を学び、実態を知る。 川底の石から何がわかるか、観察し学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目と同じ場所で活動。 それぞれの観察対象ごとに専門家が付き、課題解決のための活動ができるように支援する。 <p>〔胴長・長靴・タモ網・箱眼鏡・水槽(バット)〕</p>

時	単元名 (題材名)	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等 〔教材・必要物〕
<p>(6・7時間) 調べたことをまとめよう (整理・分析)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ のべ3回(2日)の体験活動を通してわかったことをまとめる。 ・ 課題解決のためにさらに資料にあたり調べ学習をする。 ・ 活動、調べ学習の結果をレポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に現地で見たこと、聞いたことを中心にまとめるように促す。 ・ 課題解決にあたっては、地域の河川の未来を意識しつつ作業の支援を行う。 ・ インターネットを活用する場合、情報を鵜呑みにせず、体験した事実や記憶を大切にするように支援する。
<p>(8時間) 発表の準備をしよう</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会の準備や作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことをわかりやすく伝えられる発表ができるように支援する。
<p>(9・10時間) 調べたことを伝えよう (発信)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の川について調べてきたことを発表しあう。 ・ 友達の発表を聞き、地域を流れる川についての情報を共有して、川に対する考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことをわかりやすく人に伝えられるように支援する。 ・ 友達の発表を聞き、自分の課題以外のものについても知ることで、川を多面的にとらえることができるようにする。 ・ 川の環境の多様性に対応して、生息する生き物も多様であることに気づくようにする。 ・ 発表会には保護者や地域の方も招き、未来の地域を思い浮かべながら、児童の思いや願いを発信させたい。

プログラム地域化メンバー、実証協力校等

地域プログラム化メンバー：非営利活動法人環境パートナーシップいわて
実証協力校等：まごころハーブの郷、大槌川（大槌町）